









## 大水槽展示魚種リスト

展示生体名	展示生体の詳細	展示個体数
<p>アオウミガメ</p> 	<p>学名: <i>Chelonia mydas</i> カメ目ウミガメ科 約70cm            分布: インド洋、大西洋、太平洋等の熱帯～亜熱帯地方            ・熱帯から亜熱帯にかけての海洋に生息し、主に水深の浅い沿岸域に生息します。これは主な食物である海草や海藻が生育可能であることによるものです。名前は体脂肪が青（緑）色であることに由来します。これは主食である海藻類の色素が脂肪に反映されることによるものです。</p>	1
<p>イナダ</p> 	<p>学名: <i>Seriola quinqueradiata</i> スズキ目アジ科 40cm            分布: 東シナ海、カムチャツカ半島、ハワイまでの北西太平洋。主な生息域は日本海と北海道-九州            ・日本では重要な食用魚であり、各地の文化や産業に深く関わります。また大きさによって呼び名が変わる出世魚でもあります。日本各地で様々な呼び方があります。関東 - モジャコ(稚魚) → ワカシ(35cm 以下) → イナダ(35-60 cm) → ワラサ(60-80 cm) → ブリ(80 cm 以上)</p>	5
<p>カサゴ</p> 	<p>学名: <i>Sebastes marmoratus</i> スズキ目フサカサゴ科 約30cm            分布: 南日本、伊豆諸島、朝鮮半島、中国、台湾            ・岩礁や海藻が多い海底に単独で見られます。定着性が強く、行動範囲は狭いです。繁殖期は、水温が下がる冬場になります。</p>	5
<p>クロソイ</p> 	<p>学名: <i>Sebastes schlegelii</i> カサゴ目メバル科 約30cm            分布: 日本、朝鮮半島、中国の沿岸部            ・昼間は岩礁や人工漁礁に身を潜め、日没以降に集団で泳ぎます。漁獲した個体を交配させて仔魚を産ませ、5 - 8 cm になったところで放流する栽培漁業も行われる。成長が早く、放流箇所からあまり動かないことから漁業関係者の栽培漁業に対する期待が大きい。</p>	2

展示生体名	展示生体の詳細	展示個 体数
<p>シマアジ</p> 	<p>学名: <i>Pseudocaranx dentex</i> スズキ目アジ科 約60cm            分布: 日本海側は新潟県より南、太平洋側は岩手県南部より南            ・亜熱帯・温帯海域の沿岸部に生息する大型のアジ。日本ではアジ類の中で最高級の食材として珍重されています。沿岸各地で漁獲される他に養殖も行われています。</p>	1
<p>ウマヅラハギ</p> 	<p>学名: <i>Thamnaconus modestus</i> フグ目カワハギ科 約20cm            分布: 北海道より南の日本近海から東シナ海、南シナ海にかけて            ・体型はカワハギに比べるとやや細長くなり、また後頭部に一本の大きなトゲがあります。顔が長く、馬の顔を連想させることから馬面のカワハギ、略してウマヅラハギの名前になりました。</p>	5
<p>シマフグ</p> 	<p>学名: <i>Takifugu xanthopterus</i> フグ目フグ科 約20cm            分布: 相模湾より南。東北地方で見られることもある。            ・背中に縞模様が入り、ヒレが黄色いことが特徴です。ほかのフグ科の魚同様テトロドキシン(フグ毒)が含まれます。卵巣、肝臓は特に毒性が強いですが、筋肉、皮膚、精巣に毒はありません。</p>	3
<p>メジナ</p> 	<p>学名: <i>Girella punctata</i> スズキ目イスズミ科 約30cm            分布: 東アジアの温暖な浅い海            ・地域によってクチブト、グレなどの名前と呼ばれます。体は黒に青が混ざったような色をしています。食性は雑食性で、夏は主に甲殻類、ゴカイなどの小動物を捕食しますが、冬は主に海藻を食べるなど、季節に応じた食性の変化が見られます。</p>	3

8種類 約25匹

※個体数は変更となる場合がございますが、予めご了承ください。